

5.2 現地調査

1) 調査箇所の選定

現地森林調査地は、候補地として本業務で実施した林相判読の調査対象地内から図 5-2 のように 20 箇所（スギ林：4 箇所、ヒノキ林：4 箇所、竹林：12 箇所）を抽出した。ここでは、樹冠の混み具合より森林整備の優先度が最も高い「1」とした林分を中心に、対策を優先すべき竹林について調査箇所が多くなるよう設定した。

上記 20 箇所の候補地の中から、近隣住民の理解が得られるなどの事情を勘案し、10 箇所に選定し現地調査を実施した。その際、調査対象の林分割合は変えないよう配慮した（スギ林：2 箇所、ヒノキ林：2 箇所、竹林：6 箇所）。

なお、現地森林調査は平面積 100 m²の方形プロット（10m×10m）を基本とするが、竹林については現実的に調査可能な範囲として 4 m²の方形プロット（2m×2m）で行った。

表 5-1 現地調査箇所一覧

No.	林小班（施業番号）	樹種
2	4 林班ホ小班 (28)	スギ
4	4 林班ニ小班 (50)	竹林
5	4 林班ニ小班 (22)	竹林
9	4 林班ト小班 (42)	ヒノキ
11	4 林班ロ小班 (23)	ヒノキ
12	4 林班ロ小班 (43)	スギ
13	4 林班ロ小班 (44)	竹林
16	3 林班イ小班 (6)	竹林
17	4 林班イ小班 (3)	竹林
20	3 林班イ小班 (15)	竹林

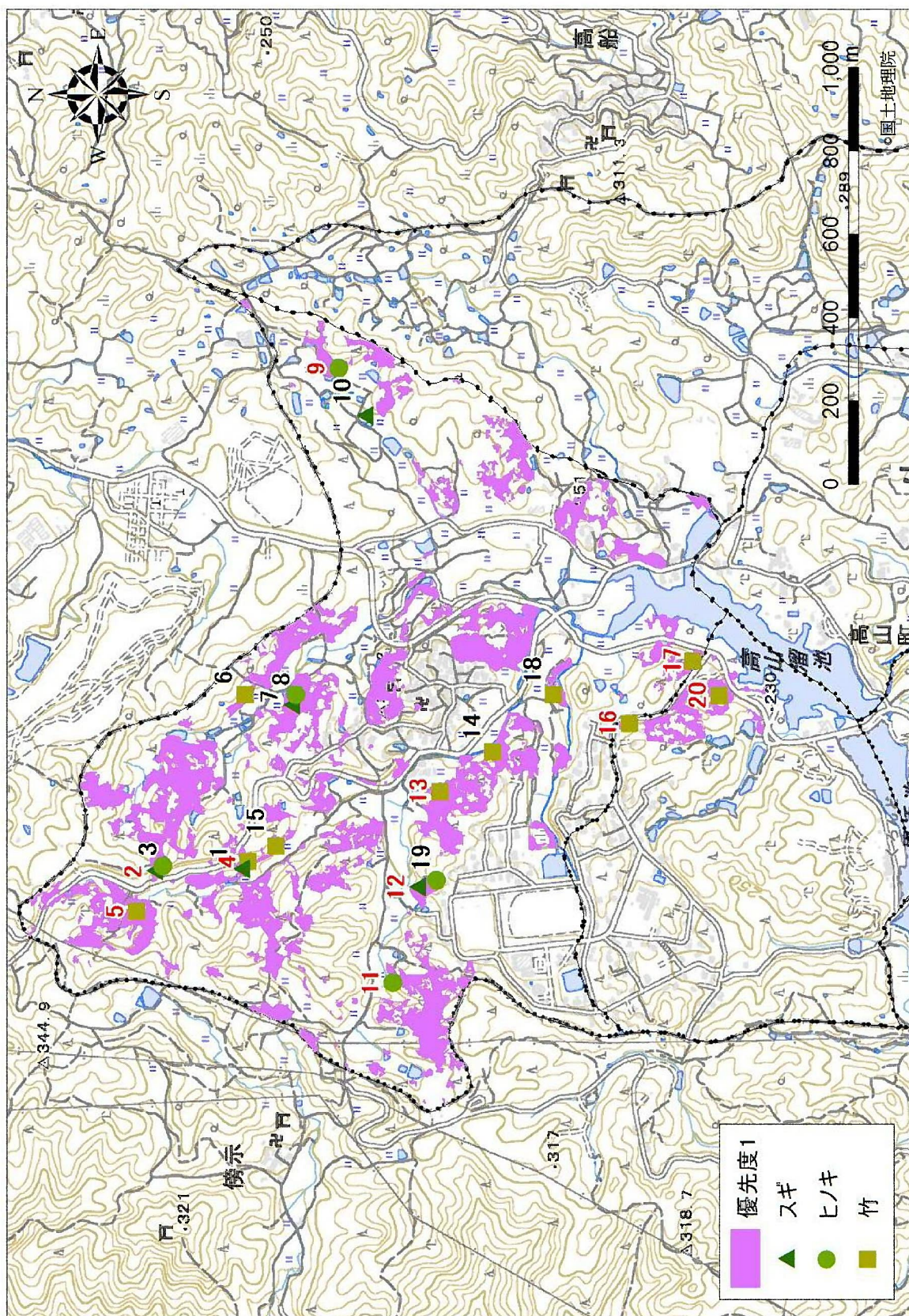


図5-2 現地調査地候補位置図(赤字は現地調査実施箇所)
(S=1:10000)

2) 現地森林調査の結果

現地森林調査の結果を表 5-2 に示す。なお、全調査箇所の森林調査票と写真一覧については末尾に添付する。

まず、竹林（6 箇所）に関してはハチクが多く、荒廃が進んでいるほか、タケ自体の枯損や混在する広葉樹の枯損木が保全対象（電線等）に接触するなど、早急な対応が必要な林分が大半を占めていた。一方の人工林であるスギ林（2 箇所）、ヒノキ林（2 箇所）については、いずれも長い期間放置され間伐遅れの林分であり、調査地によっては枯損木が目立つ、小規模な崩壊地が存在するなどこちらも早急な対応が必要な状況であった。



写真 5-1 荒廃状況の例（調査地 No. 4）

本業務での 10 箇所の調査地は林相判読の成果から森林整備の優先度が高い林分を抽出して選定したものであるが、いずれの林分も現地調査の結果、荒廃が進んだ林分であることが確認できた。

このことから、樹冠の混み具合を危険度の指標としてデータ整備を行った本調査での取り組みは、荒廃森林=整備が優先されるべき林分の抽出という点において、非常に有用なものであることが実証されたと言える。

表 5-2 現地森林調査結果表

調査地点 番号	林班	小班	施業 番号	位置		面積 ㎡	傾斜 (度)	斜面 位置	方向	樹種	林分密度		平均樹高 m	調査年月日	調査者
				経度	緯度						本(ha当たり)	本(100㎡当り)			
2	4	ホ	28	N34.4642	E135.4246	110	15	上部	西向	スギ	1,400		36.0	2021/3/20	前田
4	4	二	50	N34.4635	E135.4247	4	35	平坦 下部	西南向	タケ		175	6.7	2021/3/19	前田
5	4	二	22	N34.4644	E135.4243	4	10	平坦 下部	南向	タケ (ハチク)		250	5.4	2021/3/19	前田
9	4	ト	42	N34.4628	E135.4333	110	20	上部	北西向	ヒノキ	2,500		18.0	2021/3/20	前田
11	4	口	23	N34.4623	E135.4236	120	25	上部	北向	ヒノキ	1,300		24.0	2021/3/20	前田
12	4	口	43	N34.4621	E135.4244	120	35	上部	北向	スギ	2,000		18.0	2021/3/25	前田
13	4	口	44	N34.4621	E135.4253	4	35	平坦 下部	北向	タケ (モウソウチク)		125	11.6	2021/3/19	前田
16	4	イ	6	N34.4605	E135.4300	4	35	平坦 下部	東向	タケ (ハチク)		275	4.6	2021/3/18	前田
17	4	イ	3	N34.4600	E135.4306	4	10	平坦 下部	南向	タケ (ハチク)		225	4.1	2021/3/19	前田
20	3	イ	15	N34.4558	E135.4303	4	10	平坦 下部	東向	タケ (ハチク)		250	5.7	2021/3/25	前田